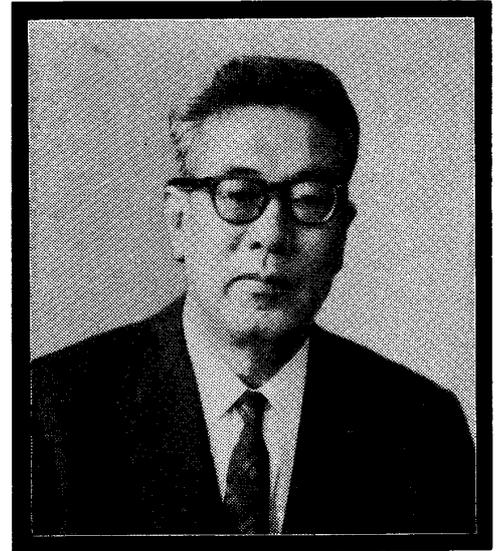


元 会 長
名 誉 会 員

当山道三先生のご逝去をいたむ



本学会名誉会員当山道三先生は昭和49年4月29日逝去されました。会員諸兄にこのことを報じなければならぬのははなはだ残念なことであります。日頃先生の頑健な御姿を拝していた私達は、先生がわれわれの学会、土質工学界を高所からいつまでも見守り指導してくださるものと思ひ込んでおり、こんなに早く逝かれるとは考えてもいませんでした。明治32年12月23日のお生れ故74歳、当今としては早死ともいえませんが長生きとはいえないお年でした。第二高等学校を経て東京帝大の土木を卒業されたのが大正14年、関東地震の翌々年でした。直ちに満鉄に奉職されましたが、不慮の怪我のため同社を辞され、御帰国の上昭和4年日本大学専門部教授として若い技術者の薫育に従事されることになりました。昭和18年、田中豊先生の要請に応えられて、新設の台北帝大に教授として赴任されました。土木技術者の育成のかたわら、台湾総督府の嘱託として台湾の発展にも心を致されました。

同大学では評議員として大学行政にも関与されていましたが敗戦により台北帝大が廃止され、国立台湾大学が新発足するに当り、請われて工学院教授となられ、昭和22年に帰国されるまで同大学に留まられました。日本大学に教授として再び迎えられた先生は旧の如く同大学で人才育成に従われましたが、同大学習志野校舎設立には特別に力を尽されたと聞いております。70歳を迎えられて名誉教授に推挙されました後も若干の講義を持っておられました。

一方、昭和24年より本学会の前身である日本土質基礎工学委員会の委員として、26年からは委員長として同委員会を指導され、土質工学会が発足してからは昭和32年より会長としてわが国の土質工学ならびに土質工学界の発展に尽されました。その間昭和32年ロンドンで催された第4回土質基礎工学国際会議には日本代表として出席されたのですが、堂々たる体軀に羽織袴の正装を着してレセプションに出られ、出席者を圧倒されたのは今でも私達の語り草になっています。昭和41年には本学会の名誉会員に推挙され、私達の先生に対する敬愛を受けられました。

昭和47年には永く技術教育界に尽された功により勲三等瑞宝章が授けられました。

本年4月4日早朝突然脳血栓で仆れられ一時近くの救急病院に入られましたが日本大学板橋病院に移られ、多くの医師の手厚い療養を受けられました。やや病状が良くなりましたが、遂に復することなく、4月29日逝かれたのであります。

先生は堂々たる体軀、悠容せまらざる風貌、ユーモアのセンスの持主で、土質工学界の揺籃時代から今日の盛時を迎えるまで常にそれを見守り指導を与えて来られ、土質工学界、土質工学会に大きな足跡を残されたのであります。直接先生を知る者がいなくなっても、御功績は歴史に大書され語り継がれて行くことと思われまます。

先生が酒を愛されたことは衆知のことで、飲み方は豪快でありました。庶民的な店を好まれ、後輩と共に和気藹々酒を楽しまれていました。

先生の御急逝に接して日尚浅く悲しみ深いのでありますが、先生の温容を忍びつつ謹んで御冥福を祈る次第であります。

(日本大学教授 工博 最上武雄)

社団法人 土 質 工 学 会